

令和3年(2021年)の全数把握対象疾患

届出された全数把握対象疾患について、感染症サーベイランスシステム(NESID)より情報を収集・解析した。また、新型コロナウイルス感染症については、「新型コロナウイルス感染症に関する報道資料の一覧」(奈良県防災統括室:<https://www.pref.nara.jp/55062.htm>)より情報を収集・解析した。

令和3年までの全数把握対象疾患(新型コロナウイルス感染症を除く)の届出状況は、表1のようになっている。なお、現時点(令和4年7月時点)での速報値であり、後日変更されることがある。

1. 一類感染症

届出はなかった。

2. 二類感染症

結核は173例の届出があり、令和2年の202例から減少した。類型は、患者124例、疑似症患者2例、無症状病原体保有者46例、感染者死亡者の死体1例であった。患者の病型は、肺結核が80例、その他の結核(結核性胸膜炎、結核性髄膜炎、リンパ節結核、粟粒結核等)が35例、肺結核及びその他の結核が9例であった。全届出の年齢階層は、0歳4例、1～10歳未満0例、10代1例、20代10例、30代9例、40代5例、50代6例、60代22例、70代50例、80代45例、90代21例で、70歳以上が全体の67.1%を占めており、過去10年で70代の占める割合は最も高くなった(別添1)。

3. 三類感染症

腸管出血性大腸菌感染症は46例の届出があり、令和2年の52例から減少した。類型は、患者32例、無症状病原体保有者が14例で、その年齢階層は、0～10歳未満26例、10代3例、20代3例、30代7例、40代2例、50代3例、70代1例、80代1例であった。なお、溶血性尿毒症症候群(HUS)は4例であった。血清型・検出病原体は、O157が41例(VT1が1例、VT1&VT2が29例、VT2が10例、VT不明1例)、O21が1例(VT1)、O115が1例(VT1)、O165が1例(VT1&VT2)、O型判別不能が2例(VT2が1例、VT不明が1例)であった。推定感染経路は、経口感染が10例、接触感染が21例(3例経口感染と重複)、動物・蚊・昆虫等からの感染1例、不明が17例であった。経口感染が推定されている事例には、羊肉の生食や牛の心臓の生食といった生肉を喫食した記載のある事例が含まれていた(別添2)。

4. 四類感染症

日本紅斑熱1例、レジオネラ症20例の届出があった。

日本紅斑熱は、4月に1例の届出があった。60代男性で、ペア血清での抗体陽転により届出がなされた。マダニによる刺し口があり、発熱、発疹、肝機能異常を呈しており、推定感染地域は、県内とされている。

レジオネラ症は、20例の届出があり、2020年の25例から減少した。病型は全例、肺炎型であり、男性14例(50代2例、60代5例、70代5例、80代2例)、女性6例(70代3例、80代1例、90代2例)であった。推定感染経路は水系感染が8例、塵埃感染が1例、不明が11例であっ

た。

5. 五類感染症

アメーバ赤痢 7 例、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 35 例、急性脳炎 2 例、クロイツフェルト・ヤコブ病 3 例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症 9 例、後天性免疫不全症候群 1 例、

アメーバ赤痢 7 例、ウイルス性肝炎(E型肝炎及びA型肝炎を除く)1 例、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 29 例、急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く。)2 例、急性脳炎(ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く)1 例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症 8 例、後天性免疫不全症候群 5 例、侵襲性インフルエンザ菌感染症 1 例、侵襲性肺炎球菌感染症 18 例、水痘(入院例に限る。)5 例、梅毒 56 例、破傷風 1 例、バンコマイシン耐性腸球菌感染症 3 例、百日咳 2 例、麻しん 1 例の届出があった。

アメーバ赤痢は 7 例の届出があり、男性 5 例(50 代 3 例、60 代 1 例、70 代 1 例)、女性 2 例(30 代 1 例、60 代 1 例)であった。病型は、腸管アメーバ症 6 例、腸管外アメーバ症 1 例であった。推定感染経路は経口感染 1 例、性的接触(同性間)1 例、性的接触(異性間)1 例、性的接触(同性・異性間)1 例、不明が 3 例であった。推定感染地域は、経口感染の 1 例がフィリピンで、奈良県 2 例、県外 1 例、不明 3 例であった。

ウイルス性肝炎は、60 代女性 1 例の届出があり、サイトメガロウイルス IgM 抗体検査の結果により届出された。

カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症は 29 例の届出があり、男性 15 例(40 代 1 例、50 代 1 例、60 代 1 例、70 代 6 例、80 代 6 例)、女性 14 例(20 代 1 例、60 代 1 例、70 代 4 例、80 代 3 例、90 代 5 例)であった。年齢は 60 歳以上が多く、全体の約 9 割を占めた。病原体検出検体は、血液 10 例、腹水 1 例、髄液 1 例、胆汁 4 例、喀痰 5 例、尿 7 例、その他 2 例であった(重複有り)。分離された菌種は、*Enterobacter cloacae* 7 株、*Klebsiella pneumoniae* 6 株、*E. coli* 5 株、*Enterobacter cloacae complex* 2 株、*Klebsiella oxytoca* 2 株、*Serratia marcescens* 2 株、*Enterobacter aerogenes* 1 株、*Klebsiella aerogenes* 1 株、*Providencia stuartii* 1 株であった。推定感染経路は以前からの保菌が 8 例、中心静脈カテーテル 2 例、尿路カテーテル 6 例、その他医療器具 1 例、手術部位(手術手技)が 2 例、その他 3 例、不明 7 例であった。

急性弛緩性麻痺は 7 月に 3 歳女兒、9 月に 2 歳女兒の 2 例の届出があった。両事例とも感染原因・経路は不明であり、ポリオウイルスは検出されなかった。

急性脳炎は、1 月に 70 代男性 1 例の届出があり、原因病原体は不明であった。

劇症型溶血性レンサ球菌感染症は 8 例の届出があり、男性 3 例(70 代 2 例、90 代 1 例)、女性 5 例(70 代 1 例、80 代 1 例、90 代 3 例)であった。血清群は B 群 2 例、G 群 3 例、不明 3 例であり、推定感染経路は創傷感染 6 例、その他(胸部ステント)1 例、不明 1 例であった。

後天性免疫不全症候群は男性 5 例(20 代 1 例、30 代 2 例、50 代 2 例)の届出があり、うち 1 例は梅毒の合併があった。病型は無症候性キャリア 3 例、その他 2 例(アメーバ赤痢肝膿瘍疑い 1 例、急性 HIV 感染症 1 例)であり、推定感染経路は性行為感染(同性間・異性間性的接触)2 例、不明 3 例であった。

侵襲性インフルエンザ菌感染症は 80 代男性 1 例の届出があり、発症当日に死亡している。また、ワクチン接種歴は不明であった。

侵襲性肺炎球菌感染症は 18 例の届出があり、男性 12 例、女性 6 例であった。年齢階層は、0 歳 1 例、1 歳 4 例、50 代 2 例、60 代 2 例、70 代 3 例、80 代 5 例、90 代 1 名であった。ワクチン接種歴は、1 歳以下では 3 回以上接種しており、その他の年齢ではワクチン接種歴有り 1 例、接種歴無し 8 例、不明 4 例であった。

水痘(入院例)は 5 例の届出があり、男性 4 例(20 代 2 例、30 代 1 例、80 代 1 例)、女性 1 例(10 代)であった。病型は全て検査診断例であり、ワクチン接種歴は無しが 1 例、不明が 4 例であった。推定感染経路は、飛沫・飛沫核感染 1 例、飛沫・飛沫核感染及び接触感染 1 例、不明 3 例であった。

梅毒は 56 例の届出があり、令和 2 年の 41 例より増加した。男性 36 例(20 代 10 例、30 代 7 例、40 代 12 例、50 代 5 例、60 代 1 例、70 代 1 例)、女性 20 例(10 代 1 例、20 代 12 例、30 代 4 例、40 代 1 例、50 代 1 例、90 代 1 例)であった。患者の病型は、早期顕症梅毒 35 例(I 期: 男性 15 例、女性 5 例、II 期: 男性 9 例、女性 6 例)、晩期顕症梅毒 1 例(男性)、無症候(無症状病原体保有者)20 例(男性 11 例、女性 9 例)であり、無症候のうち男性 1 例は、HIV 感染症の合併があった。感染経路は性的接触が 51 例(性交 41 例、経口 10 例、同性間 6 例、異性間 34 例、不明 5 例(重複を含む))、その他 1 例、不明 5 例であり、性的接触(同性間)は全例男性であった。また、性風俗産業の従事歴(直近 6 か月以内)があった事例は 7 例あり、性風俗産業の利用歴(直近 6 か月以内)があった事例は 20 例であった。推定感染地域は、奈良県が 16 例、奈良県以外(都道府県不明・海外を含む)が 24 例、不明は 16 例であった(別添 3)。

破傷風は 80 代女性 1 例の届出があった。推定感染経路は猫のひっかき傷による創傷感染であり、筋肉のこわばり、開口障害、嚥下障害、発語障害の症状による臨床診断であった。ワクチン接種歴は不明であった。

バンコマイシン耐性腸球菌感染症は 3 例の届出があり、男性 1 例、女性 2 例であり、全て 80 代であった。病原体検出部位は、血液 1 例、尿 2 例であり、菌種は全て *Enterococcus faecium* であった。推定感染原因・経路は、前医からの持ち込み感染 1 例、不明 2 例であった。

百日咳は女性 2 例(10 歳未満 1 例、80 代 1 例)の届出があり、令和 2 年の 9 例より減少した。推定感染原因・経路は 10 代未満 1 例で家族内感染(不明)、80 代 1 例で家族内感染(ひ孫)であった。ワクチン接種歴は、10 歳未満 1 例は未接種の記載があり、他は不明であった。

麻しんは 11 月に 90 代男性 1 例の届出があり、病型は修飾麻しん(検査診断例)で、ワクチン接種歴は不明であった。推定感染経路は飛沫感染で、推定感染地域は奈良県であった。

6. 新型インフルエンザ等

新型コロナウイルス感染症は、令和 2 年 2 月 1 日に感染症法に基づき指定感染症に定められ、令和 3 年 2 月 3 日付け感染症法改正により、新型インフルエンザ等感染症に類型が変わった。男性 7386 例、女性 6566 例、不明 1 例の 13953 例であり、その年齢階層は、10 歳未満 959 例、10 代 1682 例、20 代 2818 例、30 代 1861 例、40 代 2213 例、50 代 2038 例、60 代 1029 例、70 代 766 例、80 代 430 例、90 代 152 例、100 代 5 例であった(別添 4)。

表1 全数把握対象疾患報告状況

	疾患名	調査年		平成28年(2016年)		平成29年(2017年)		平成30年(2018年)		平成31年・令和元年(2019年)		令和2年(2020年)		令和3年(2021年)	
		全国	奈良県	全国	奈良県	全国	奈良県	全国	奈良県	全国	奈良県	全国	奈良県	全国	奈良県
一類	エボラ出血熱														
	クリミア・コンゴ出血熱														
	痘そう														
	南米出血熱														
	ペスト														
	マールブルグ病														
二類	急性灰白髄炎														
	結核	24,669	266	23,427	285	22,448	232	21,672	283	17,786	202	16,238	173		
	ジフテリア														
	重症急性呼吸器症候群														
	中東呼吸器症候群														
	鳥インフルエンザ(H5N1)														
三類	コレラ	9		7		4		5		1					
	細菌性赤痢	121	2	141		288	1	140		87		7			
	腸管出血性大腸菌感染症	3,647	23	3,904	21	3,854	26	3,744	23	3,094	52	3,237	46		
	腸チフス	52		37		35		37		21		4			
	パラチフス	20		14		23		21		7					
	E型肝炎	356	2	305	1	446		493	1	454	1	458			
四類	ウエストナイル熱														
	A型肝炎	272	3	285	1	926	7	425	3	120	1	71			
	エキノコックス症	27		30		19		28		24		24			
	黄熱														
	オウム病	6		13		6		13		7		9			
	オムスク出血熱														
	回帰熱	7		8		6		7		15		10			
	キャサスル森林病														
	Q熱					3		2							
	狂犬病										1				
	コクシジオイデス症	3		4		2		2		6					
	サル痘														
	ジカウイルス感染症	12		5				3		1					
	重症熱性血小板減少症候群	60		90		77		101		78		110			
	腎症候性出血熱														
	西部ウマ脳炎														
	ダニ媒介脳炎	1		2		1									
	炭疽														
	チクングニア熱	14		5		4		49	1	3					
	つつが虫病	505		447	1	456		404	1	538		545			
	デング熱	342	5	245	4	201	2	461	4	45		8			
	東部ウマ脳炎														
	鳥インフルエンザ(H5N1を除く)														
	ニパウイルス感染症														
	日本紅斑熱	277		337		305		318	1	422	3	487	1		
	日本脳炎	11		3				9		5		3			
	ハンタウイルス肺症候群														
	Bウイルス病							2							
	鼻疽														
	ブルセラ症	2		2		3		2		2		1			
	ベネズエラウマ脳炎														
	ヘンドラウイルス感染症														
発しんチフス															
ポツリヌス症	5	1	4		2		3		4		5				
マラリア	54		61		50		57	1	21		30				
野兎病															
ライム病	8		19		13		17		27	1	23				
リッサウイルス感染症															
リフトバレー熱															
類鼻疽			1		2		2		1						
レジオネラ症	1,602	10	1,733	18	2,142	19	2,316	21	2,059	26	2,131	19			
レプトスピラ症	76		46		32		32	1	17		34				
ロッキー山紅斑熱															
五類	アメーバ赤痢	1,151	11	1,089	9	843	9	853	11	611	6	537	7		
	ウイルス性肝炎	228	1	241	1	214	1	257	2	186		149			
	B型肝炎	35		31		29		31		25		12			
	C型肝炎														
	D型肝炎	17		22		33		43	1	35		42	1		
	不明					1						1			
	(再掲:合計)	280	1	295	1	277	1	331	3	246		204	1		
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1,573	22	1,660	27	2,289	45	2,333	35	1,956	35	2,065	29		
	急性弛緩性麻痺					141		1		34		25			
	急性脳炎	763	4	702	5	679	7	959	11	491	2	338	1		
	クリプトスポリジウム症	14		19		25		19		6		5			
	クロイツフェルト・ヤコブ病	175	3	200	3	221	2	193	4	157	3	181			
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	494	5	587	10	694	16	894	10	718	9	646	8		
	後天性免疫不全症候群	1,443	3	1,395	7	1,301	6	1,231	7	1,094	1	1,054	5		
	ジアルジア症	71	1	60	1	68		53	2	28		36			
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	312	6	372	3	488	4	543	4	253	5	194	1		
	侵襲性髄膜炎菌感染症	43	1	25		37	1	48	1	14		1			
	侵襲性肺炎球菌感染症	2,735	23	3,205	40	3,328	28	3,344	23	1,655	17	1,405	18		
	水痘(入院例)	318	3	312	5	466	5	492	9	362	8	301	5		
	先天性風しん症候群									4		1			
	梅毒	4,575	36	5,826	29	7,007	53	6,642	71	5,867	41	7,978	55		
	播種性クリプトコックス症	137	1	137	2	182	2	156	3	152	3	161	1		
破傷風	129	3	125	2	134	1	126	2	104	2	93	1			
バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症					80		7		80		124	3			
バンコマイシン耐性腸球菌感染症	61	5	83		12,115	56	16,845	37	2,819	7	752	2			
百日咳															
風しん	126		91	2	2,941	10	2,298	15	101	1	12				
麻疹	165	3	186	1	279		744	9	10		6	1			
薬剤耐性アシネトバクター感染症	33		28		24		24		10		6				
髄膜炎菌性髄膜炎															
新型インフルエンザ等	新型インフルエンザ(A/H1N1)														

ゼロ値は表示していない

結核

(別添1)

図-1 過去からの週別届出数の推移

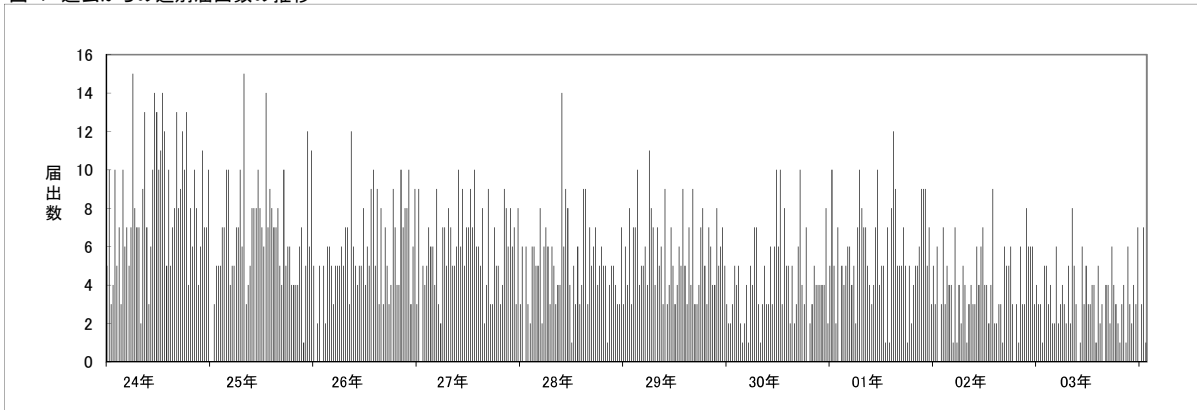


図-2 過去からの届出数の推移

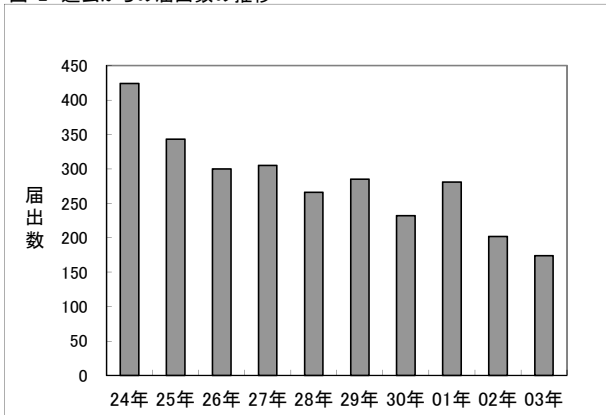


図-5 週別届出数

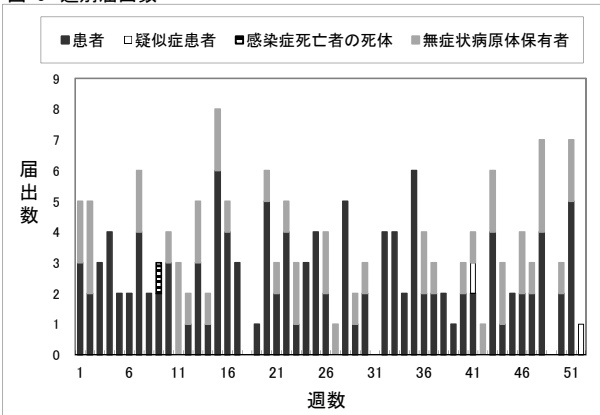


図-3 年齢別届出数

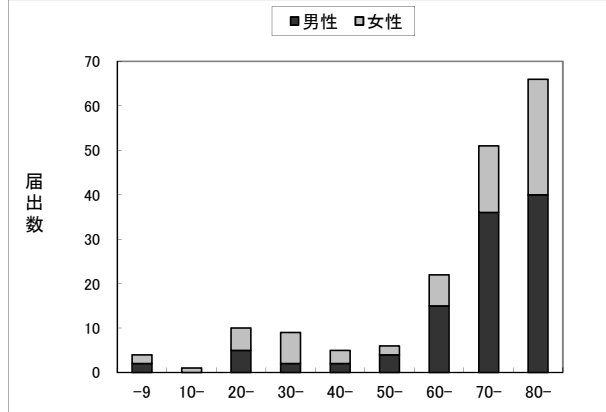


図-6 病型別

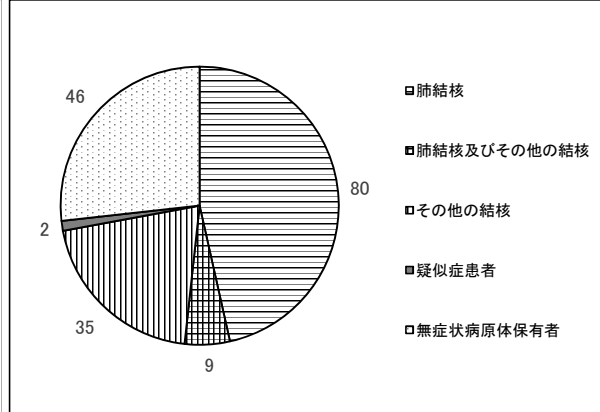
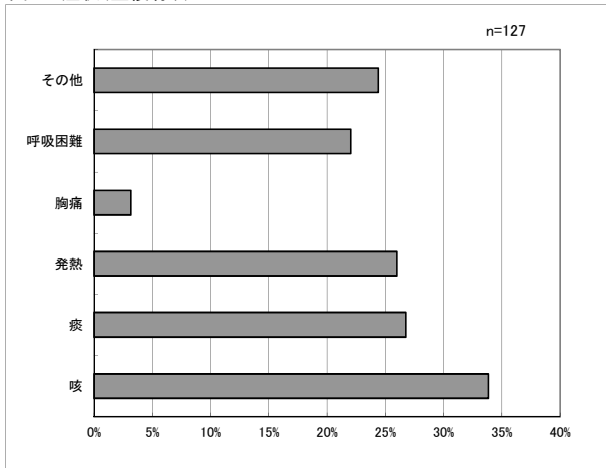


図-4 症状(重複有り)



その他

感染地域(推定含む)
 県内:50例
 国内(県外・不詳):115例(国内不明含む)
 海外:8例

腸管出血性大腸菌感染症

(別添2)

図1 過去からの週別届出数の推移

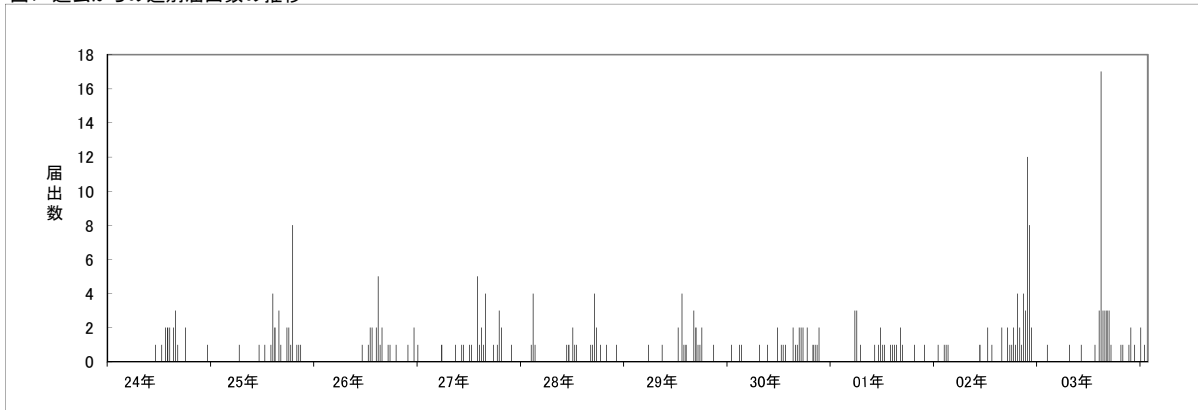


図2 過去からの届出数の推移

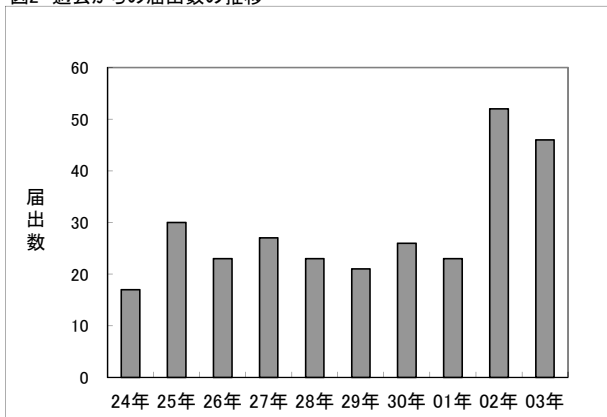


図5 週別届出数

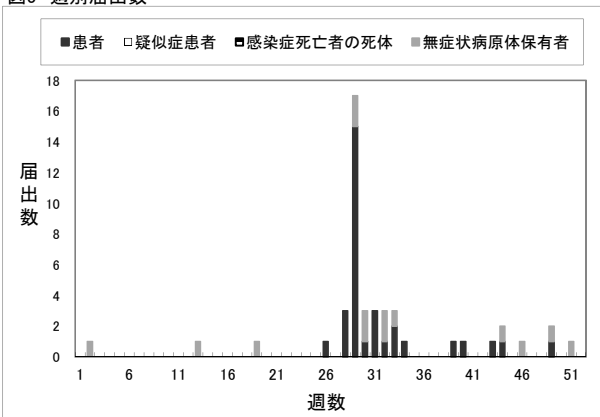


図3 年齢別届出数

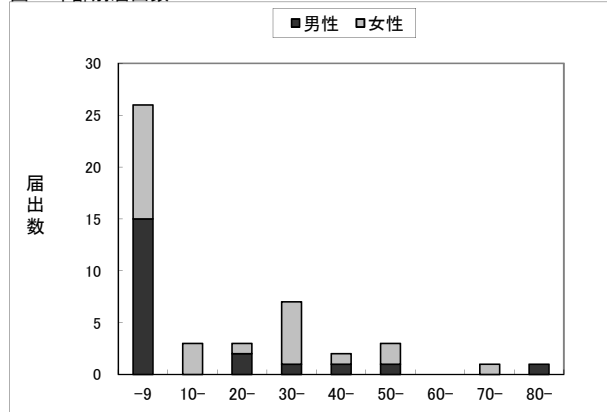


図6 病型別

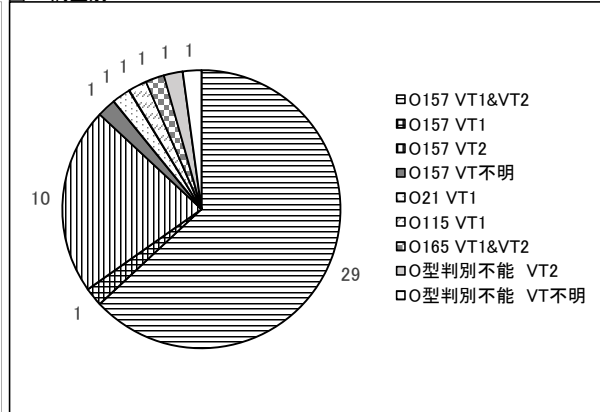
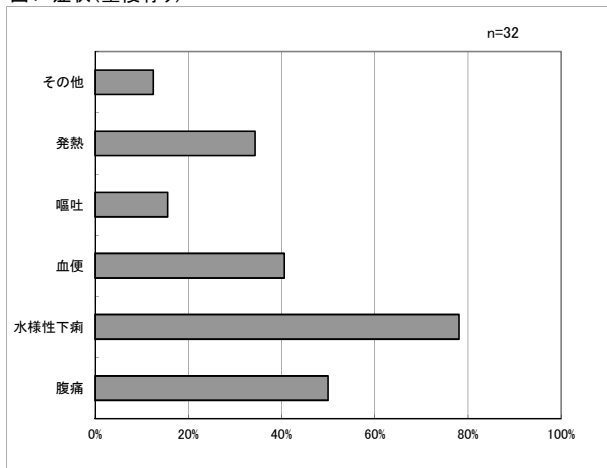


図4 症状(重複有り)



その他

感染地域(推定含む)
 県内:33例
 国内(県外・不詳):13例

感染経路(推定、重複含む)
 経口感染:10例
 うち7例に肉類(生肉等)の記載あり
 接触感染:21例
 動物・蚊・昆虫等からの感染:1例
 不明:17例

梅毒

(別添3)

図-1 過去からの週別届出数の推移

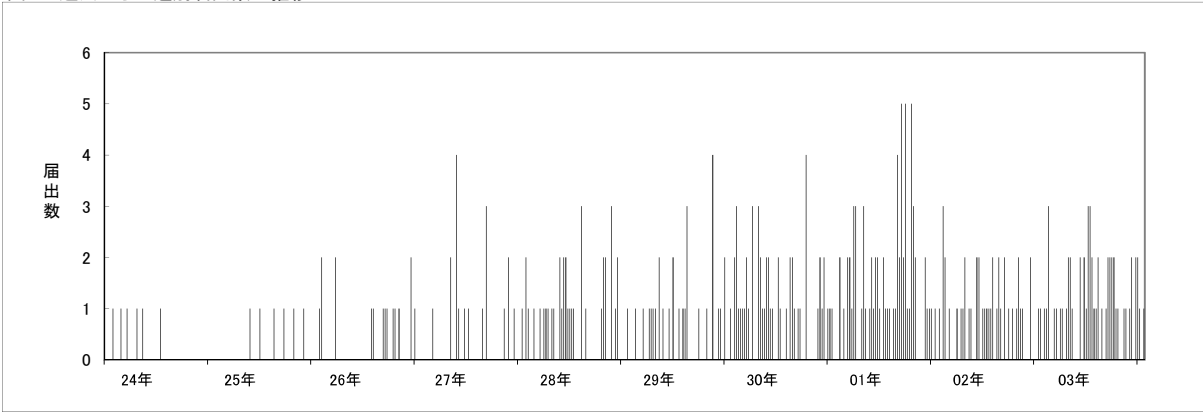


図-2 過去からの届出数の推移

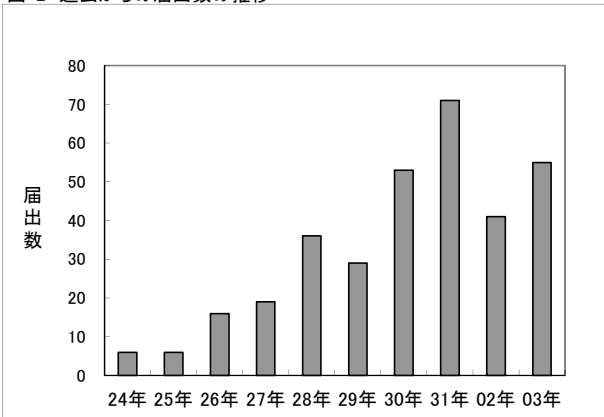


図-5 週別届出数

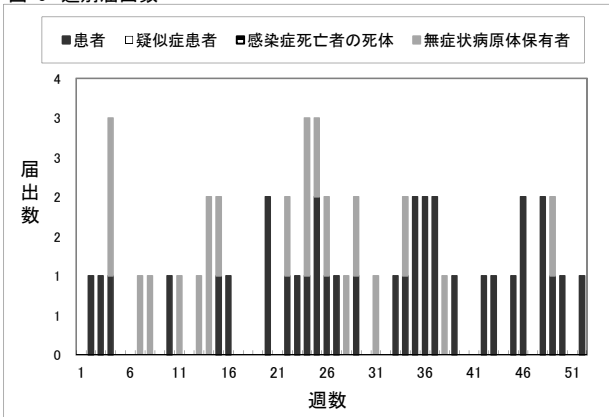


図-3 年齢別届出数

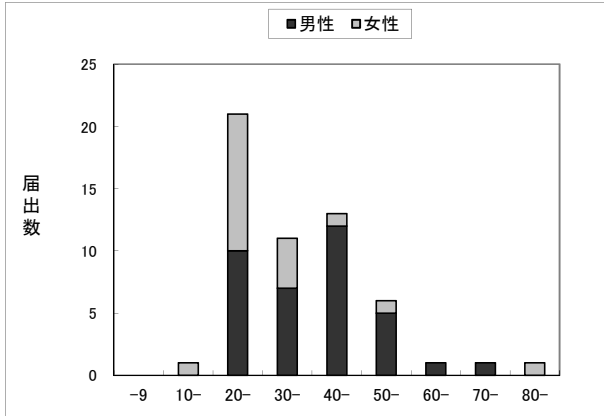


図-6 年齢群別の届出数の推移

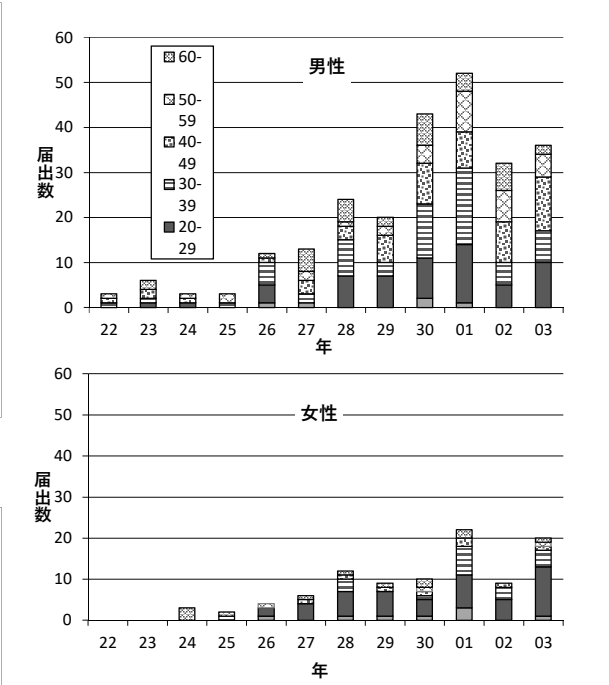
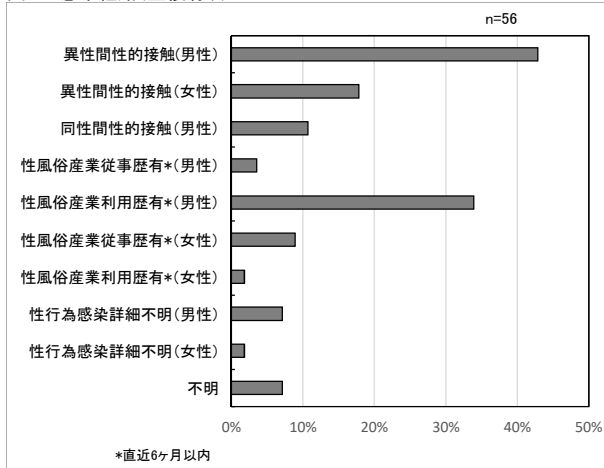


図-4 感染経路(重複有り)



その他

感染地域(推定含む)
 県内:16例
 県外:23例(国内不明含む)
 海外:1例
 不明:16例

図-1 年齢群別の届出数の推移

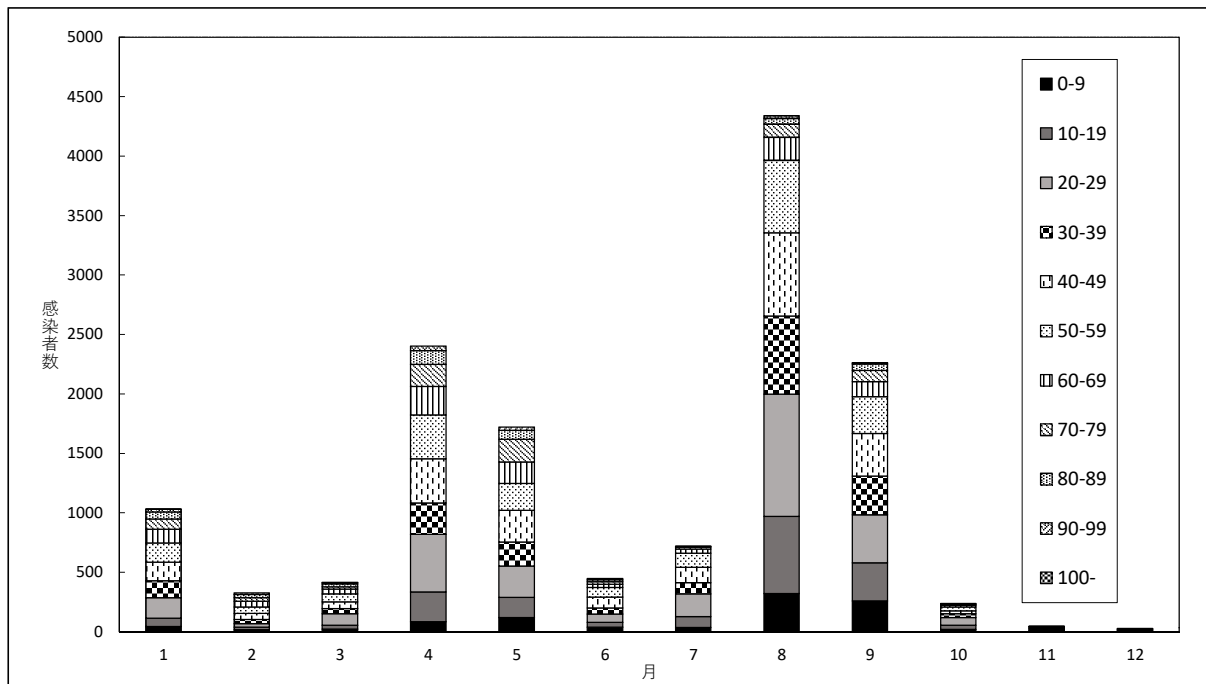


図-2 年齢別感染者数

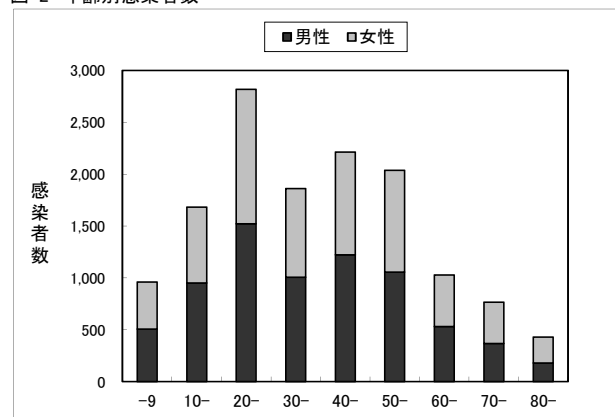


図-3 感染者居住地

